Management Club Report

Feb.2018/Vol.182

Monthly Opinion　≪光を捉えるために≫

『光を捉えてのりこえる』今年、中心的に考えていこうとするテーマです。毎月のレポートや、定期的にお伺いしている歯科医院での研修内容に取り入れていくほか、大きな取り組みとしては６月のサマーミーティングと１２月のスタッフリーダー・ミーティングでの共通テーマとして掲げており、それぞれのスピーカーも決定いたしました。

サマーミーティングには、東京大学社会科学研究所教授である玄田有史先生。『希望学』の研究者としてつとに有名な方で6年ぶりの講演です。今回は『希望のチカラ』という演題でお話しいただきます。そしてその前座には向と私が歯科医院の現場で出会った素晴らしい院長やスタッフたちの「光を捉えてのりこえた実例」をご紹介しながら意見交流を図る会にする予定です。

スタッフリーダー・ミーティングには、静かなる意欲を内に秘めた4人の発表者たちが集まりました。非技術系スタッフからは東京の市ヶ谷番町歯科クリニックで12年受付を務めてきた木村仁美さんと、愛知県 I Dental Clinic で治療アシストとMRCエデュケーターを務める４年目の伊藤綾香さん。技術系スタッフとしては富山県の中央歯科医院で15年間歯科衛生士として頑張る森早苗さんと、静岡県アヒルの子歯科で歯科衛生士を23年続ける高山亜季さんです。伊藤さんを除いて3人の方は既婚者。さらに森さんと高山さんはお母さんです。この4人に共通するところは、派手さはないものの地道な努力家という点です。特別のことではない、日々やるべきことをただコツコツと愚直に積み上げてきた。そんな動きの中で彼女たちは余人には見えない一条の光を見出し、その光を頼りに自らを生かし、そして組織も生かしてきた。そんな人たちであるように映ります。

サマーミーティングとスタッフリーダー・ミーティングは、それぞれ今年の中間点とゴールに相当します。スタートラインに立った今、「光はどこにあるのか」「どこを目指せば光は見えるのか」そんなことが頭の中を巡っています。最近の体験も交えながら思うことを書いてみました。

1　鷲田清一氏の「いくつもの時間」に学ぶ

多忙な社会人が大学院で学ぶ

今年に入って、色々なところで活用している素晴らしい文章があります。**鷲田清一**氏が**日本経済新聞**１月７日付朝刊に寄稿した『**いくつもの時間**』です。